

## せんべいかん 錢幣館コレクションと貨幣博物館の設立

### 錢幣館のあらまし

「錢幣館」は、1923(大正 12)年に、当時古貨幣の収集・研究家として知られていた田中<sup>けいぶん</sup>啓文氏が自邸内に設立した煉瓦作りの建物であり、氏が収集した貨幣および関連資料を保管・展示するとともに研究活動を行う博物館でした。錢幣館コレクションは、世界有数の東洋貨幣のコレクションとして知られていますが、その内容は単に古銭を収集したものではなく、日本の貨幣史、経済史を研究するうえで必要な貨幣ならびに関係資料を広く含み、その総数は 10 万点にも及びました。

#### 錢幣館のさまざまな資料（一例）

日本貨幣（和同開珎等の古代銭貨、天正大判等古金銀貨、寛永通宝、各藩藩札、絵銭 等）、中国・朝鮮・ベトナム・タイ等の東アジア貨幣、銭範（鋳型）、藩札の版木、古文書、銭譜、錦絵、古地図、財布、千両箱、銭刀、富札、米切手

#### 田中啓文（本名：田中 謙）氏・略歴

1884(明治 17)年 7 月	東京・白金に生まれる
1906(明治 39)年 10 月	古銭収集家の同人会「東京古泉協会」に入会
1918(大正 7)年 7 月	「東洋貨幣協会」（旧東京古泉協会）理事兼幹事に就任
1920(大正 9)年 5 月	第 3 代東洋貨幣協会会長に就任
1923(大正 12)年 1 月	「東洋貨幣研究所 錢幣館」開館
1944(昭和 19)年 12 月	収集資料を日本銀行に寄贈
1950(昭和 25)年 7 月	貨幣研究雑誌『錢幣館』を創刊
1956(昭和 31)年 12 月	逝去

（参考：東洋貨幣協会『貨幣』、郡司勇夫「私が見た錢幣館主 田中啓文先生」『ボナンザ』所収）

## 日本銀行への資料の寄贈と貨幣博物館

### ■日本銀行への寄贈

太平洋戦争末期、戦局の悪化とともに、空襲による被災の恐れが生じました。1944(昭和19)年、貨幣館コレクションを戦禍にさらすことを恐れた田中啓文氏と、渋澤<sup>はいそ</sup>敬三・日本銀行総裁との間で、資料を日本銀行に寄贈する話が具体化しました。渋澤総裁は、みずから民俗資料の収集・研究家でもあり、文化財的な資料の保護に対する理解が深く、貨幣館コレクションを中心に将来貨幣博物館を作る構想をもっていたと伝えられています。

貨幣館コレクションは、東京への空襲が本格化するなかで1944年末に日本銀行へ寄贈され、現在に至っています。

### 渋澤敬三氏・略歴

1896(明治 29)年 8月	東京・深川に生まれる
1921(大正 10)年 4月	横浜正金銀行に入行
1926(大正 15)年 7月	第一銀行取締役 <sup>はいそ</sup> に就任
1936(昭和 11)年	北多摩郡保谷村に民族学会附属博物館を開館
1942(昭和 17)年 3月	日本銀行副総裁に就任
1944(昭和 19)年 3月	第16代・日本銀行総裁に就任(～1945<昭和20>年10月)
1945(昭和 20)年 10月	大蔵大臣に就任(幣原内閣)(～1946<昭和21>年5月)
1946(昭和 21)年	日本民族学協会会長に就任
1956(昭和 31)年 7月	金融制度調査会会長に就任
1957(昭和 32)年 1月	社会経済史学会顧問に就任
1963(昭和 38)年 10月	逝去

(参考：渋澤敬三伝記編纂刊行会『渋澤敬三』)

### ■貨幣博物館の設立まで

貨幣館コレクションの受け入れに合わせ、日本銀行は当時貨幣館で収集・研究に携わっていた郡司<sup>いさお</sup>勇夫氏を迎え入れました。これは、資料を適切に管理し研究するためには専門家が是非必要という渋澤総裁の考えによるものでした。郡司氏は日本銀行に移籍後、貨幣館コレクションを中心とする貨幣コレクションの整理・保存・研究に尽力し、文化財として資料を後世に伝える点でも大きく貢献しました。

1947(昭和 22)年 5月、貨幣館資料の金銀貨が、連合軍最高司令官総司令部(GHQ)による接收対象となった折、郡司氏が「文化財は自らの手で守り、活用していくべき」と力説し、交渉の結果、文化財として公開することを条件に接收を免れることができました。

その後、1972～1976(昭和 47～51)年にかけて『図録 日本の貨幣』(日本銀行調査局編、全11巻)が刊行され、こうした研究成果をもとにして、1985(昭和 60)年 11月に貨幣博物館が開館しました。その後もコレクションを守り伝え展示していくため、調査・研究を続けています。